



Prevalence and the influence of trapeziometacarpal osteoarthritis on patients with carpal tunnel syndrome

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2025-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉浦, 香織 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000391

論文審査の結果の要旨

手根管症候群（CTS）は、頻度の高い末梢神経障害であり、手術治療としては手根管開放術が行われる。母指 CM（carpometacarpal）関節症を合併する CTS 症例では、CTS 手術後の短母指外転筋（APB）の筋力がやや弱いことが日常診療経験から推測された。そこで、手根管開放術を受けた患者における母指 CM 関節症の有病率を検討し、CTS 手術後の筋力回復に与える影響を分析することを目的に本研究が行われた。

2002 年から 2017 年に手根管開放術を施行した 134 例を対象とし、後ろ向きに診療録が調査された。平均経過観察期間は 11.4（6～24）か月であった。関節症の重症度について Eaton 分類を用いて判定し、Stage 2 以上の 53 例を母指 CM 関節症陽性群（TMC+群）、Stage 1 以下の 81 例を陰性群（TMC-群）として比較を行った。本研究は浜松医科大学臨床研究倫理審査委員会の承認を受けて実施された（承認番号：21-085）。

検討の結果、母指 CM 関節症は CTS 手術症例の 40%に合併していた。正中神経の神経伝達速度は、CM 関節症の有無に関わらず同等であった。一方で、術前に APB 筋力が不良であり、術後に筋力の改善が見られた症例は TMC-群で 58.7%に対し、TMC+群では 37.5%にとどまった（ $p<0.05$ ）。その理由として、解剖学的に APB は大菱形骨から起始しており、TMC を有する CTS 症例では、APB の強度を最大化するための CM 関節の安定性が十分でない可能性がある。

審査委員会では、TMC の有無が、CTS 術後の APB 筋力改善に影響があることを初めて明らかにしたことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 尾島 俊之

副査 山内 克哉 副査 五島 聡